

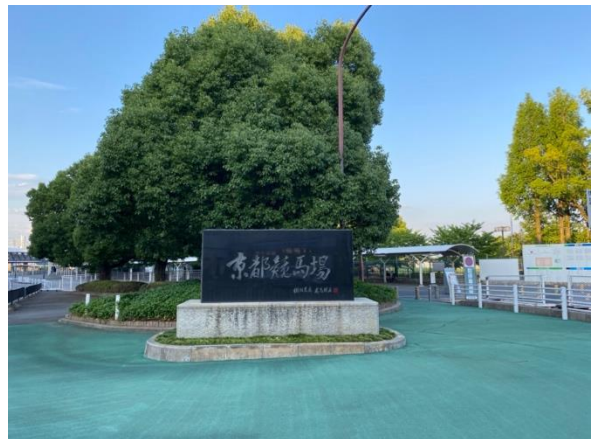
京都競馬場

安藤 大凱

(2020 年入学 4 期生)

都競馬場の歴史

京都競馬場が現在の淀駅近くに建設されたのは 1925 年 12 月 1 日である。移転当初の京都競馬場は、敷地約 10 万坪、1 周 1600 メートルの走路と、スタンド（第 1、2 号館）や勝馬投票券発売所、厩舎が建設されていた。巨椋池の排水路跡、葭島新田西端部の沼地のような地盤に作られたこともあって、非常に馬場状態が悪かった。このため、馬場に畳床を敷き詰めて改良したという逸話がある。しかし、競馬場へのアクセスが良く、1929 年の秋 6 日間の開催では、354 万円の勝馬投票券を売り上げ、当時の競馬場で日本一の売上となった。1935 年には馬場拡張工事が実施され、第三コーナーの斜走坂路通称「淀の坂」が新設された。1943 年には金属回収令により大スタンドが撤去されてしまう。しかし戦後の 1958 年には大スタンドの屋根が復旧させられた。その後数々の名馬やアイドルホースが誕生し競馬人気が復活、再び多くの人々が訪れるようになった。1985 年には「ターフビジョン」という大型映像装置が設置され向こう正面の攻防は双眼鏡で覗くことから大型ビジョンで観戦するスタイルへと移行した。1999 年にも増設工事が行われ、新スタンド「ビッグスワン」が完成。この時旧スタンドもリニューアルされ「グランドスワン」と名称が決定した。そして現在 2020 年から 2023 年まで大規模工事が実施されている。そのため今は京都競馬場ではレースは開催されておらず、入場することができない。



京都競馬場の現在と未来の姿

現在の京都競馬場は 2025 年の創設 100 周年の記念事業の一環として大規模工事を施工している。2023 年の三月から再開される予定である。工事がすべて終わるのは 2024 年 3 月の見込みだ。

現在行われている工事は以下の通りである。

- ・グランドスワン（昭和 55 年竣工）の改築（鉄骨造 地上 6 階 延床面積 約 61,000 平

方メートル)

- ・ビッグスワン（平成 11 年竣工）の改修（内装・設備等一式改修）
- ・下見所の改築（楕円形、一周長 140 メートル）
- ・シンザンゲート、歩道等スタンド周辺施設の改築ほか

これらから大きな改革であることが分かる。これまでのパドックは京都競馬場のみ円形であったが今回パドックも工事で楕円形へとなる。円形のパドックは京都競馬場の見どころであった。しかし通常の円形のパドックは馬が見やすいため改装される。



京都競馬場開催レース

競馬にはレースの種類が 9 種類ある。その中で最も格式高く、賞金も多いレースが「G1」である。競馬を普段しない人たちでも知っている有馬記念や日本ダービーなども「G1」である。G1 レースは年に 24 レース行われる。現在一年間に約 7000 頭のサラブレッドが生まれると言われている。この中の一握りが最高峰 G1 タイトルを手にすることができ、競走馬にとっての大目標である。



京都競馬場で開催される G1 レースは 24 レース中 5 レースである。

一つ目は芝コース 3200 メートルで行われる「天皇賞（春）」。現存する中央競馬の平地 G1 競争では最長距離のレースである。4 歳以上の馬による重賞競争 レースである。

二つ目は芝コース 2000 メートルで行われる「秋華賞」。秋華賞は 3 歳牝馬限定戦であり牝馬三冠の最後のレースである。今まで牝馬三冠を成し遂げたのは 6 頭のみ。

三つ目は芝コース 3000 メートルで行われる「菊花賞」。菊花賞は 3 歳牡馬戦でありクラシック三冠の最後のレースである。二度の坂越えと 3000 メートルの長丁場を克服することが

求められることから「最も強い馬が勝つレース」と称されているレース。三冠を成し遂げた馬は8頭。

四つ目は芝コース 2200 メートルで行われる「エリザベス女王杯」。エリザベス女王杯も秋華賞と同じく牝馬限定戦である。牝馬三冠路線を歩んできた4歳牝馬と古馬牝馬の実績馬が集い女王を争うレースである。

最後の五つ目は芝コース 1600 メートルで行われる「マイルチャンピオンシップ」。マイル（1600 メートル）のチャンピオン決定戦として位置づけられている。短距離の実績馬のほかクラシック路線を歩んだ3歳馬や天皇賞秋の出走予定馬がそろそろ傾向のあるレースだ。

無敗の牝馬三冠馬「デアリングタクト」

京都競馬場ではこれまで数多くの名勝負、レジェンドホースが誕生してきた、中でも私は「デアリングタクト」という馬を紹介する。デアリングタクトは新馬戦、オープンレースから桜花賞、優駿牝馬、秋華賞と破竹の5連勝を成し遂げ、見事に牝馬三冠を達成した。これは史上初の快挙である。かつて牝馬三冠を成し遂げたことのある馬はいたが、無敗の三冠牝馬は初である。デアリングタクトは京都競馬場で行われた秋華賞（2020）に単勝1.4倍という圧倒的人気でレースに出走した。当日のパドックでは落ち着かない様子もあり見ていた私も不安でいっぱいであった。さらにスタートは少し遅れるという波乱の幕開けであった。コロナ過で入場制限された京都競馬場ではあったものの観客からは熱いまなざしが送られていた。しかし序盤の不安はなんのその、最終コーナー広いコースに位置をとり、そこから鋭い末脚を繰り出し見事に一着でゴールした。少ないながら、観客からは拍手が送られた。テレビの前の競馬ファンも拍手、拍手であっただろう。私はこの歴史に残るレースを直接ではなく、テレビで見ていたが手に汗握る展開でありとても興奮した。少しでも興味がYouTubeなどに動画があるので見てほしい。

京都競馬場とは牝馬三冠最後のレースである「秋華賞」、またクラシック三冠の最後のレース「菊花賞」、歴史に名を残すレースが生まれる場所である。こんなにも歴史や伝統のある場所でレースを楽しむのには少しかかるが必ず行きたい。先日写真を撮りに行っただけでもテンションが上がった。「競馬」と聞くとどうしてもギャンブルというイメージが先行してしまう。しかし実は裏では多くの関係者の努力のおかげで馬が無事に出走できていることや、馬それぞれの物語があり「スポーツ」としての競馬も楽しんでもほしいと思う。

参考文献

- ・ [レースのクラス分け：競馬のルール JRA](#)
- ・ [京都競馬場整備工事について JRA](#)

用語解説

「牝馬三冠」 桜花賞、オークス、秋華賞

「クラシック三冠」 皐月賞、日本ダービー、菊花賞

「古馬」 年頭から春競馬の終わりまでは4歳以上の馬のこと